

来リテ慈訓ヲ賜ハル。多年此ノ教団ニ生活シタル師、死後ノ光栄何ニヨリテ之ニ比センヤ。

徳孤ナラズ必ズ隣アリト、以テ師ガ生前ノ德行ヲ識ルニ足ル。

宗祖上人曰ク、唯願クバ経ヲ持チ名ヲ十方佛院ノ願海ニ流シ譽ヲ三世菩薩ノ大悲天ニ施スベシト。

故日海上人ハ、此祖訓ヲ実現シタル人ト謂フベシ。經ニ曰ク、是人持此經 安住稀有地ト伏シテ願クハ此功德ニ酬テ普ク法雨ヲ法界ニ灑ギ自恠平等利益周遍ナラン而已。

南無妙法蓮華經

干時明治四十二稔四月二十日

僧都慈香院 日堂 敬白

追悼文

上行山二十世眞如院日海上人、明治四十一年十二月二十五日八十三歳の高寿を以て非滅現滅の相を現し給いしより烏兔早く十有七年を過ぎたり。上人在世の法勲を追想し、悲涙更に新なり。茲に本日をトし寺檀一結謹で十七回忌の法筵を開く。

大導師には、顯本法華宗監督布教師僧正笹川日堂上人を屈請親臨と仰ぎ 法華宗現董木下圓通師、法子渡邊日研師、伊保内教精師、伊保内教守師、伊保内教明師、法孫中島元道師等影向参列して恭しく佛乘を讚す。其他遺族親戚檀信徒雲集の盛儀蓋し、当山空前の法會にして、故日海上人の高德行化法勲の甚大なものある非ずんば、焉ぞ能く斯の如きを得んや。

伏して惟るに日海上人は、我盛岡の生める近世の偉材たり。文政九年正月十三日盛岡城下に呱呱の声を揚げ夙に濟世度生の壮志を懷き、天保四年四月八日八歳を以て上行山十八世觀明院日誠上人に隨て染衣雜髮し、禪教と称し、後、眞如院日海と号す。爾來、螢雪多年上総国宮谷檀林に学び、或は江戸に又は、関東各地に遊化し、或は宗学の濫奥を究め、一意宗風の宣揚に是努む。

慶應四年の奉郷党の懇請辞し難く、擢んでられて宗命を拜し、先進を超えて上行山二十世の法燈を紹ぐ、洵に異数に属せり、時恰も王政維新百度変革の秋に際し或は廃佛毀釋の大動揺に遭い内外多難の秋に当り、不屈不撓法運の興隆に心胆を砕き、銳意寺門の経営と化導普及に惟努む、遂に権少講議の官命を拜し、次で教部省より中院會計課長の重責を命ぜられ、更に岩手県下派内教導職取締申付らる。又以て上人高德の一端を窮うに足らん。

在任実に三十有三年化益遠近に洽く本堂を再建して道場の基礎を確立し、或は信徒を引率して会津本山妙法寺に什祖の五百遠忌に列し、又は京都総本山妙満寺に登詣し、大僧正板垣日暎上人山岬日暉上人、本多日生上人等各数度の巡錫を乞い、平素の行学不断の化導宗風の闡場に竭されたること言説の能く盡す所にあらず。

日海上人は、実に盛岡法華寺の中興開山として我等の永久にその高風を偲び、甚大なる化益に浴する所なり。

嗚呼上人逝て十有七年世態変遷又昔日の比にあらず。上人在世を追懐し戀慕渴仰の情轉た切なるものあり。

謹で追悼の法筵を暢ぶ。仰ぎ願くは上人靈山浄土の雲の上に、我等の至情を歡喜領納あらしめ給え南無妙法蓮華經

維時大正十三年五月二十五日

法華寺檀信徒総代

中村 謙藏 敬白

第二十一世就学院日研師は、日海上人の高足として明治三十三年夏晋山するや宗命を体して、宗風の宣揚別勸請の撤廃等に関し、事態容易ならざるものありしが、克く檀信徒の歸嚮を愆らしめず之を断行し、尚師命を承けて庫裡倉庫等を改築して大に寺觀を改めたり。

大正十一年春、圓通日音上人の第二十三世として瑞世せらるゝや、一意寺門の興隆を念として、昭和四年本堂及び客殿を本瓦葺屋根に改め、昭和六年宗祖の遠忌虔修に備えたり。

昭和六年十月二十三日管長大僧正井村日威猊下、笹川日堂猊下等の参列を得て日蓮大聖人第六百五十遠忌を盛大且嚴肅に奉修したりしが、後病に冒され豊橋市に轉地し専ら静養に努たるも遂に昭和八年一月九日同地に於て遷化せり。

現董田口公信師宗命を以て、第二十四世の法燈を嗣ぎ、昭和八年八月五日晋山式を挙げたり、烈々たる道念を以て内外に教陣を張り活躍殆んど席温まるの違なし。檀信一結歸依頗る篤し。既に基本財産の造成を見、目下位牌堂及び客殿の増築、参道の改修等着々進捗中に屬し、以て来る什祖の五百五十遠忌奉修並に皇紀二千六百年記念運動に備えつゝあり。師の行化篤行は、必ずや将来顯本の教光、頓に揚り、佛日増輝化益周遍期すべきものあらん。